

管理会計論(会計学[午前]) 過去の論文式本試験の出題テーマ

		第1問		第2問	
		テーマ	難易度	テーマ	難易度
2006年	問題1	総合原価計算(工程別)	B	標準原価計算、事業部制組織	B
	問題2	標準原価計算	C	設備投資意思決定	C
2007年	問題1	製造間接費の配賦	A	予算管理(予算編成と予算統制)	B
	問題2	CVP分析、原価管理	B	資金管理とキャッシュ・フロー管理	C
2008年	問題1	標準原価計算、CVP分析	B	原価管理(原価企画)	B
	問題2	総合原価計算(組別)、ABC	C	設備投資意思決定	A
2009年	問題1	総合原価計算(等級別、組別)	B	差額原価収益分析(自製か購入か)	B
	問題2	標準原価計算、ABC	B	分権組織とグループ経営の管理会計(事業部制組織における業績評価)	B
2010年	問題1	総合原価計算(単純、工程別)	B	原価管理(原価企画)	B
	問題2	CVP分析、ABC	B	設備投資意思決定	A
2011年	問題1	部門別個別原価計算	A	資金管理とキャッシュ・フロー管理	B
	問題2	標準原価計算、原価管理	B	差額原価収益分析	C
2012年	問題1	標準原価計算	A	設備投資意思決定	B
	問題2	予算、標準原価計算	B	分権化組織とグループ経営の管理会計(事業部制組織における業績評価)	B
2013年	問題1	部門別個別原価計算	C	設備投資意思決定	B
	問題2	総合原価計算	C	事業部の業績測定、内部振替価格	B
2014年	問題1	実際総合原価計算、標準原価計算	A	業務的意思決定(最適セールス・ミックスの意思決定)	C
	問題2	ABC	A	予算管理(予算編成、予算管理と人間行動)	C
2015年	問題1	費目別計算、部門別計算、総合原価計算	B	資金管理(キャッシュ・サイクル)	B
	問題2	仕損・減損の発生と標準原価計算	B	予算管理、分権組織とグループ経営(事業部の業績測定)、設備投資意思決定	B
2016年	問題1	費目別計算、製造間接費の配賦計算、個別原価計算、総合原価計算(組別)	B	資金管理(資金繰表、資金運用表)	B
	問題2	標準原価計算	B	部門別計算、ABC	B
2017年	問題1	部門別計算(補助部門費の配賦、原価管理)	A	設備投資意思決定	C
	問題2	標準原価計算(仕損・減損の発生と標準原価計算)	A	分権組織とグループ経営の管理会計(内部振替価格)	C
2018年	問題1	総合原価計算(連産品、副産物)、業務的意思決定	C	資金管理とキャッシュ・フロー管理	C
	問題2	標準原価計算(仕損・減損の発生と標準原価計算)	A	ABC、業務的意思決定	A
2019年	問題1	費目別計算、製造間接費の配賦計算、個別原価計算	A	原価管理(原価企画)、業務的意思決定	A
	問題2	標準原価計算(仕損・減損の発生と標準原価計算)、減損率が安定している場合	B	業務的意思決定、設備投資意思決定	C

A ⇒ 平易
B ⇒ 標準
C ⇒ 難解

素点ベースで、6～7割以上の得点が望まれる。ほとんどの論文受験生が解ける。
素点ベースで、4～5割の得点が望まれる。合格するような論文受験生なら解ける。
素点ベースで、2～3割の得点が望まれる。ほとんどの論文受験生が解けない(埋没問題)。

論文式試験
に対し、日頃
の勉強は？

概ね、第1問が「原価計算」領域からの出題で、第2問が「管理会計」領域からの出題。

↓
全ての問題が難解(Cランク)という年はない。

↓
平易な問題(Aランク)と、標準的な問題(Bランク)をいかに早く見つけて、
得点を効率よく「拾えるか」・「積み上げられるか」が重要。
(いかに、難解な問題にハマらないか)

↓
基礎力を徹底的に身に付け、試験会場で応用できる力を磨くことが重要。

↓
講義と復習でしっかりインプットし、各種の答練で本試験を意識したアウトプット練習をする。

管理会計論(会計学[午前]) テキスト重要性一覧 + 過去の論文式本試験出題実績 早見表

前ページの、過去の論文式本試験の出題テーマを、テキストの項目別に整理すると、次のようになる。

(注意点)

- ⇒「計算問題」と「記述問題」の両方を含む、「論点」としての重要性であって、「記述問題」のみとしての重要性ではない。
- ・公認会計士試験が現行制度のもとで実施された2006年以降のデータを収録している。
- ・収録年数は、あくまでも「論文式」本試験のものである。

★…当該「章」のテーマが、「計算問題」または「記述問題」として出題されたことを表す。

○…当該「節」の内容が、「記述問題」として出題されたことを表す。⇒重要性A・Bの論点の理論問題は、いつ出題されてもおかしくないの、対策必要。

第 I 部 原価計算編

重要性		論文式 本試験の出題実績														
短答	論文	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	

[illegible][illegible][illegible]

第4章 部門別計算							★	★		★		★	★	★		★
第1節	部門別計算の基礎	A	B				○					○				
第2節	部門別計算の手続	A	A					○		○		○				
第3節	製造部門費の予定配賦	A	A									○		○		○

[illegible][illegible]

第7章 標準原価計算			★	★	★	★		★	★		★	★	★	★	★	★
第1節	標準原価計算の基礎 《上級》	A	B	○				○								○
第2節	標準原価計算の手続	A	A	○	○				○			○		○	○	
第3節	標準原価差異の詳細な分析	A	A													
第4節	仕損・減損の発生と標準原価計算	A	A						○			○		○	○	

[illegible]

重要性		論文式 本試験の出題実績													
短答	論文	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19

第1章 管理会計総論

[illegible]

第2章 財務情報分析《上級》

[illegible]

第3章 CVP分析

[illegible]

第4章 预算管理

[illegible]

第5章 資金管理《上級》

[illegible]

第6章 原価管理《上級》

[illegible]

第7章 ABC/ABM

[illegible]

第8章 業務的意思決定

[illegible]

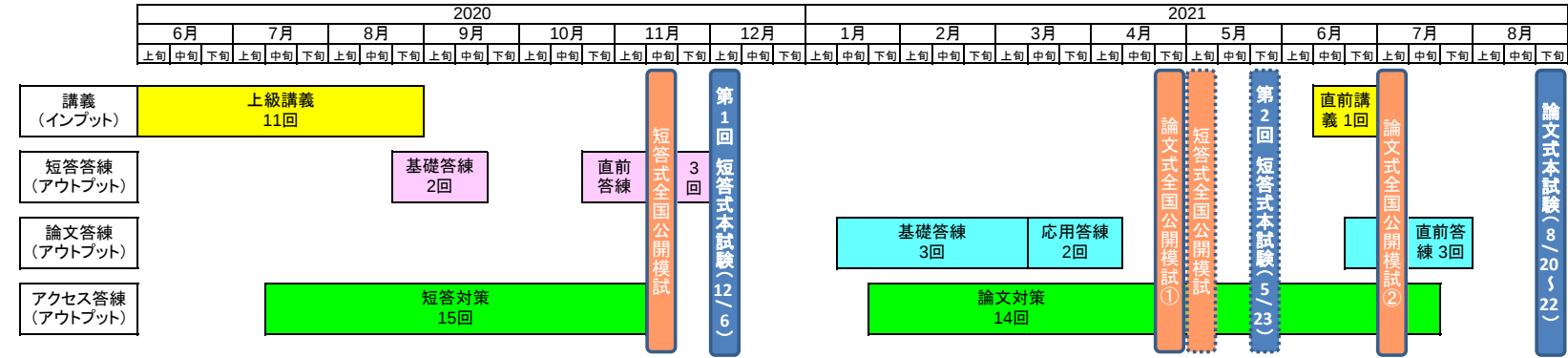
第9章 設備投資意思決定

[illegible]

第10章 分権組織とグループ経営

[illegible]

2021年合格目標 管理会計論(上級期) スケジュール



※ それぞれの答練の出題内容と目的は、別途配布の「学習ガイドライン」参照のこと。

★スケジュールから言えること

- ・12月の短答式本試験に失敗すると、8月の論文式本試験向けの学習にあわせて、5月の短答式本試験も意識した勉強をしなければいけないので、負荷が相当かかる。
- ・是が非でも、12月の短答式本試験に合格しよう！！

★夏上級講座の受験生が、合格するために必要な要素

	ポリシー	短答式（近年は難しい。大コケしないために）	論文式（全科目ベースの得点比率52.0%）
計算	他の受験生に圧倒的な差をつけることを目指すのではなく、合格者の多くが正答する問題を確実に正答する。 短答式・論文式の学習方法に大きな差はない。	・基礎計算力。 ・問題の取捨選択力。 ⇒いずれも論文式試験勉強のなかで培われる。	・基礎計算力。 ・問題の取捨選択力。
理論	短答式と論文式で要求されるスキルが異なる。	・4つの文章を相対的に正誤判定できる基礎力。 ・原価計算基準。	・問題の流れや出題者の意図を汲む力。 ・まとめる力と、説得的に論述する力。 ・キーワード。 ⇒白紙は絶対ダメ(他の受験生に、書き負けない)



これを身に付けるために、

★学習方法(インプット)

講義	最大集中して受講し、疑問点は残さず、質問でその場で解決する。 テキストをベースに進めるが、基礎マスターと同レベルの解説は割愛し、重要論点や難解論点の解説に力点を置く。
復習	テキスト、例題集、トレーニング、短答理論問題集。 講義後、できるだけ早い時期に。 計算は、繰り返し繰り返し解く(素振りと同じ)！
回転	教材を回転させる(理論は、最後は何回転できたかが勝負になる ex. 10日で1回転など)。 理論は、書いていると時間や労力ももったいないので、独り言で喋るのも1つのやり方。 答練の理論の解答を丸暗記しても、論文本試験でそのまま出題される可能性は低い。 ⇒テキストの基礎的な理論を徹底理解&暗記。 学習の中心に据える教材は、不安になっても手を広げすぎないこと！ ⇒知識の幹となる教材をしばらく、範囲を限定し、その習得に専念する。

★学習方法(アウトプット)

上のスケジュールのとおり、各種の答練で、本試験を意識した練習を行う。 (それぞれの答練の性質は、「学習ガイドライン」参照のこと。)
そのつど、なぜ得点が伸びたのか？伸びなかったのか？を分析し、その後の学習にフィードバックする。